

第5回

「大洲市総合計画審議会」・「大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定戦略会議」 議事要旨

日時：平成28年7月19日（火）午前10時

場所：大洲市役所 大ホールA

1 第2次大洲市総合計画基本構想（骨子案）について

【事務局】 説明

【会長】 まずはキャッチフレーズのサブフレーズについて、意見はありませんか。

【委員】 大洲市が特に重点的に取り組むべきことや市長のポリシーに即したものがフレーズになるのではありませんか。重点的に取り組むべきことを考えるためには、現状分析が必要ですので、RESASのビッグデータ等を活用し、大洲市の強み・弱みを示してから考えてはどうでしょうか。

【委員】 個人的には、「個性輝くまちづくり」が良いと思います。まちづくりには人が一番大事ですので、一人一人の個性が輝くという意味から、「みんなが輝く」でも良いかと思います。

【委員】 サブフレーズが長すぎると良くないので、「肱川とともに…」が良いと思います。

【委員】 現在の「みとめあい ささえあう 肱川流域都市」との違いをどのように考えるかが重要です。現在は「共生」という概念を重視したものだと思いますので、これを踏襲するならば「ともにつくる・・・」や「みんなが輝く・・・」といったフレーズを使うことも一つの方法を考えます。

【委員】 総合計画のキャッチフレーズは、市長のキャッチコピーではありませんので、皆さまで分かりやすいものを考えて頂ければと思います。

【委員】 この計画には、人口減少抑制という狙いが根本にあるのかなと感じます。そのためには、特定の分野だけでなく、全ての分野に力を入れないといけません。そう考えると、色々な分野で「ともにつくる・・・」という表現が適していると思います。また、転出した人にふるさとに帰ってきて欲しいという思いから「みんなのふるさと・・・」という表現もあり得ると思います。

【委員】 大洲市には、若者向けのお店や映画館があり、魅力的なまちになっていると思います。メインフレーズの「きらめくおおず」は、大洲市の魅力を“きらめかせて”いこうという考え方だと思います。サブフレーズもこれに沿ったものにすべきかだと思いますので、「個性輝く・・・」や「みんなが輝く・・・」といった表現が適しているのかなと思います。

【会長】 これまでの議論を踏まえて、サブフレーズを決定したいと思いますので、ふさわしいものに挙手をお願いします。

（挙手の結果、「みんな輝く肱川流域のまち」が最多）

【事務局】 みなさまの意見から、キャッチフレーズを「きらめくおおず ～みんな輝く肱川流域のまち～」に決定したいと思います。

全体を通して、何か意見はありませんか。

【委員】 資料1のP1-15、市民アンケートの満足度・重要度調査は、大変重要です。この中で、満足度が低く重要度が高いという「特に改善すべき項目」に、「産業・雇用」に関する項目が挙げられます。大洲市は素晴らしいまちと思いますが、不足しているところは「産業・雇用」です。創業の支援、商店街の再生、農林業の再生などに重点的に予算を投入していくべきと考えます。

例えば、既存の商店街を一部に集約して、撤退したところを駐車場にして自動車社会に対応した商店街をつくる。あるいは、JR伊予大洲駅から大洲城までの導線に商店街を誘導してまちを活性化させる。そのようなアイデアを実現していくべきではありませんか。

【副会長】 基本構想の骨子案では、6つの基本目標が示されており、それぞれに個別施策が位置付けられていくことになると思います。他市の事例では、基本目標5「生活環境の整備」に関連するような、生活環境の質を向上させる取組みの中で商店街が再生したような事例もあります。

分野別に施策を実施していく場合、施策がバラバラに進みがちになります。今後の課題ですが、分野を跨ぐような取組みについても注意していく必要があります。

【会長】 商店街に限らず、商業の振興は重要な課題を考えています。他にありませんか。

【委員】 昨年、県の教育振興の構想を作成する委員会に参加しましたが、そこでは、構想の中では細かい施策では無く大きな方針を書き込んでおくことが重要という話を聞きました。今後、個別施策を検討していく中で、施策の大綱には記載されているけれども具体的な施策が無い、といったことが出てくるのではないかと懸念しています。できるだけ具体的な施策を考えてほしいと思います。

【会長】 注意深く見て頂ければと思います。

2 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）の事業実績について

【事務局】 説明

【委員】 乾タケノコからメンマにして、それを肱川ラーメンと合せて売り出すことができれば、相当良いものになるのではないかと、という話を聞きました。

3 閉会